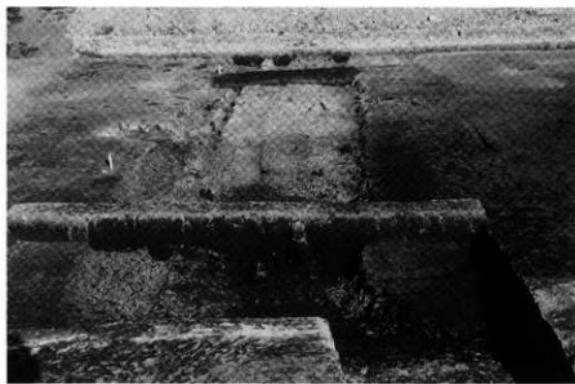




SK 8
土師器甕出土状況
(南西から)



SK 16
土師器甕出土状況
(南から)



SD 2
掘下げ状況
(西から)

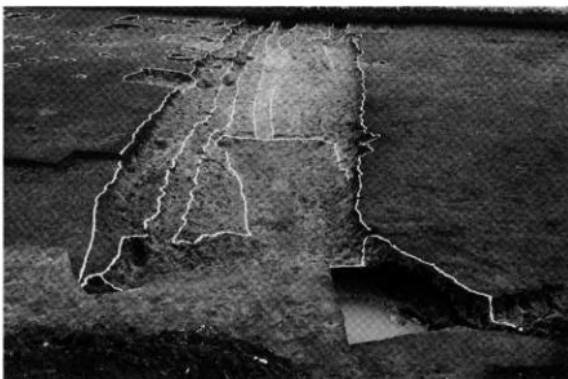
SD 2
掘下げ状況および
西部落ち込み検出状況
(北西から)



SD 2
完掘状況
(東から)



SD 2
完掘状況
(西から)





SD 2, SK 18+19
掘下げおよび実測
作業風景
(南から)



SD 2 西端部
SK 18 掘下げ状況
(北から)



SK 19
東壁崩落状況
(南から)

A区
遺構検出状況
(南西から)



C区
遺構分布状況
(南から)



C区
遺構検出状況
(西から)





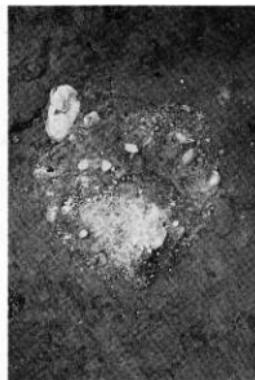
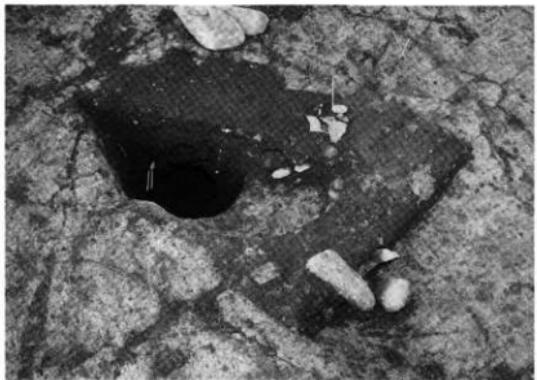
B区
遺構検出状況
(南西から)



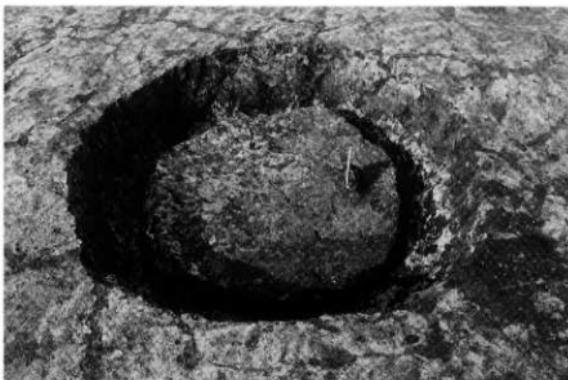
B区
遺構分布状況
(南から)



S B 1 + 2 および
遺構掘下げ状況
(南から)



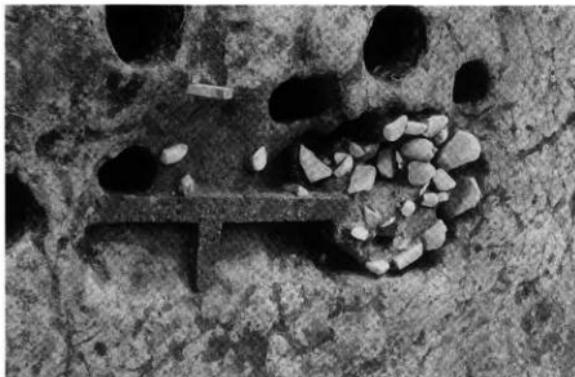
上左：SB3 PP3
柱底部空洞状の状況
上右：SB1
柱穴埋土の状況



右：A区 SK5
完掘状況



B区 SK14
半截状況
(西から)



配石遺構
掘下げ状況
(南東から、右が南東)



配石遺構
配石部の状況
(西から)



配石遺構
配石部北半の疊
石臼転用の状況
(南西から)

法光寺遺跡 II

附 彙

此研究報告は、昭和四十年三月三十日付「文部省告示」上
記の「古跡保護規則」第十九条第一項第一号に規定する
事項、並びに式神社の御守本古物監護之禁山道場、上
記の「古跡保護規則」第十九条第二項に規定する
事項、並びに式神社の御守本古物監護之禁山道場、上

II 神戸市立美術館

凡　例

1. 調査地域は『法光寺遺跡 I』に近いが、遺構番号は継続していない。
2. 調査は県文化課の吉本主事にも協力を得たが、整理作業および報告書作成については中野が行った。
3. 遺構の略号や表現方法は、前編とは統一していない。

目 次

I.はじめに.....	323
II.発掘調査.....	323
I区	
II区	
III区	
IV区	
V区	
III.まとめ.....	325
IV.総括.....	325

挿図目次

第1図 調査区と法光寺寺域	323	第8図 VI区西壁SD-08~10、SA-02、東壁SA-01 層序図	334
第2図 発掘坑および主要遺構分布図	326	第9図 SD-02北壁・SD-01層序図	335
第3図 I区遺構実測図	327~328	第10図 I・II区出土土器類実測図	335
第4図 II区遺構・北壁層序実測図	329~330	第11図 V区出土遺物実測図	336
第5図 V区遺構実測図	331~332	第12図 I・II・VI区出土布目瓦・土器・石製品・ 鐵器実測図	337
第6図 IV区溝状遺構・西壁層序図	333		
第7図 V区SR-01・西壁層序図	333		

図版目次

図版1 調査地周辺航空写真	図版8 V区南半部Ⅲ層遺物出土状態、北半部遺構検出 状態
図版2 調査区全景	図版9 V区SR-01と側溝検出状態、完堀全景・西壁層 序
図版3 I区全景、SD-01掘込状況、DB-01とSD-01 の西コーナー	図版10 V区南半全景、SA-01断面層序、SA-02断面層 序
図版4 II区全景、遺構検出状態、完堀全景	図版11 V区出土土師器、黒色土器
図版5 II区完堀全景、IV区全景、SD-05とSD-06掘込 状態	図版12 I・V区出土須恵器、調査区出土中世国産陶器
図版6 V区全景、SR-01北側柱穴群、SA-01・02周辺 柱穴内遺物出土状態	図版13 V区出土瓦質土器、SD-12出土土師器、V区出 土布痕土器、調査区出土布目瓦
図版7 VI区北半部Ⅲ層遺物出土状態、SD-09上面遺物 出土状態、SD-09完堀・西壁層序	図版14 調査区出土輸入陶磁器、V区出土鐵鎌、I区 SD-01出土砥石、II区SD-04出土五輪塔残欠

表目次

表1 I・II区出土土師器観察表	335	表3 I・II・V区出土布目瓦・石器・石製品・ 鐵器観察表	339
表2 V区出土遺物観察表	338		

I. はじめに

昭和60年度の遺跡群細分調査に伴う試掘調査において柱穴や溝状遺構、布目瓦、10世紀前半頃の土器を確認し、寺域が推定された。推定地は宅地と杉林、畑地が多く、周囲の水田とは一応の区別がつく。地権者による畠の深耕の際に巨石（礫石か）に当たったり多くの布目瓦が出土した話も聞いている。ただ、軒丸・軒平瓦は現在まで発見されていない。平成4年度、JR吉都線の北側の地区において発掘調査を実施し、平安～中世の遺構・遺物を検出。周辺の試掘調査においても中世～近世の遺構・遺物を検出しており、付近一帯が平安～中世の中心地であったと推定された（前編に報告）。

平成5年度の圃場整備事業対策地域にも寺域あるいは平成4年度調査区の集落の続きが推定されたため、関係機関と協議を重ねた。一帯の水田は高低差が少ないため切り盛りも僅かであることから、柵列や築地塀・溝状遺構などの境界を示す遺構の検出を主な目的として、道路

と水路の建設予定地について発掘坑を設定した。なお、法坑寺跡推定地周辺は、圃場整備の対象外である。

II. 発掘調査

調査は5本の狭長な発掘坑を設定し、I～V区とした（第1図）。

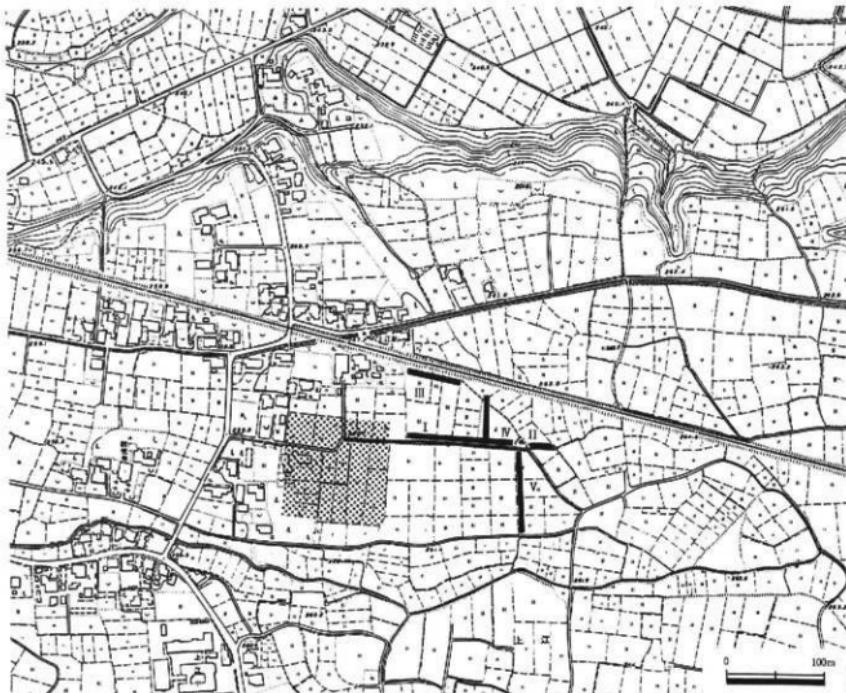
基本的層序

層序は上～I層：耕作土、II層：床土、III層：黒灰色土（3層に細分）、IV層：アカホヤ火山灰に分別した。これより下位は通常の段丘と同様、茶褐色～黄褐色系火山灰、疊層、入戸火碎流（シラス）と続く。

I区（第3図、図版3）

現農道に沿う、長さ80m、幅2.2～3.9mの発掘坑である。I・II層を剥ぐとIV層が現われ、遺構面となる。

遺構は少なく、約3mおきに並ぶ柱穴4（SB-01）のほか溝状遺構3条を検出した。柱穴は直径30cm、深さ40cm



第1図 調査区と法光寺寺域（推定、アミド）

内外の同一規模のものである。SD-01は、長さ55mにわたって検出され、幅1.8~1.9m、深さ0.9~1.1mを測る。西端部は南に枝別れするが、西と北は追確認をしなかったため、不明確である。埋土は南から流入した状況を示し(第9図)、人頭大の礫を多く含む。出土遺物としては若干の土師器片、布目瓦、龍泉窯系の青磁碗、砥石などがある。

SD-02は幅0.9m、深さ0.2~0.3mの溝状遺構であり、北東から南西へ流れる。

SD-03は幅0.8~1.2m、深さ0.2m内外で、幅が一定しない。埋土は黒灰色土で、土師器の小破片が出土している。

II区(第4図、図版4)

幅10m、深さ0.44~0.62mの溝状遺構(SD-04)とその支線(幅0.64~1.04m、深さ0.3~0.4m)を検出した。

SD-04の埋土には砂粒が多く、文明ボラ(1476)と思われる白色バミスも多く含んでいる。出土遺物としては土師器片50点のほか、輸入陶磁器2点、石製品1点などがある。

III区

調査区の東端部において1条の溝状遺構(SD-07)を検出した。上面の幅は1.13m、下底は0.27m、深さは0.60mを測り、南側で2又に分かれる。出土遺物は無い。

IV区

SD-01の北9.0mと12.54mの地点で溝状遺構(SD-05、06)を検出した(第6図)。SD-05は幅0.40m、深さ0.25m内外、SD-06は幅1.22~1.27m、深さ0.49mで拳大の礫を含む。

北端部は旧谷で落ち込むが、近年“天地返し”によって擾乱されている。

V区

調査区の中で唯一、遺物包含層(IIIa層)が遺存していた。III層以下は南へ緩やかに傾斜し、遺構面は3面(IIc・IIIa・IIlb上面)あった(第8図)が、検出はIVa上面のみで行った。

遺構としては柱穴のほか、溝状遺構(SD-08~12)、石敷道路(SR-01)、堅穴状遺構(SA-01・02)がある。

SD-08は北端部の東西方向に流れるもので、幅0.78m以上、深さ0.06mを測る。

SD-09も東西方向で、幅2.03m、深さ0.79mを測る。

北側は2段掘りになっている。埋土から土師器の細片が出土した。

SD-10はやや北向きで、幅1.34m、深さ0.36mを測る。埋土は砂質土や砂粒で、白色バミスを含む。出土遺物は無いもののIIc層から掘り込んでおり、近世の所産と思われる。

SR-01は側溝(SD-11・12)を有する石敷道路で、IIIb上面を遺構面とする。側溝を含めた上面の幅は3.33m、石敷面は一段(0.2~0.3m)低く、1.84~2.04mの幅がある(第7図)。北の側溝はさらに0.40mU字型に掘られ南側は深さ0.14~0.18mに浅く掘られている。礫は角礫~亜角礫が多く、北半分の密度が高い。埋没後も境界は踏襲され、水路や畦畔が累積している。畦畔Aの上には現在の一筆境がある。

SA-01は1辺2.88m、深さ0.28mを測る。埋土には厚さ1~2cmの炭片や焼土層がある。

SA-02は一边2.50m、深さ0.72mを測り、両端と中間に小柱穴がある。埋土にはアカホヤのブロックが多く混じり、廃絶後に埋め戻されたと推定される。

柱穴は60個余り検出されたが、建物の復元には至らない。

出土遺物は調査区の中で最も多いが、遺構に伴う良好な資料が少ない。遺物の大部分はIII層上面~IIIa層での出土で、北側では古墳時代と平安時代の土師器が混在、中ほどでは平安時代の土師器、黒色土器、墨書き土器、布痕土器、布目瓦のほか鉄鎌が、南側では土師器のほか、東播系須恵器、輸入陶磁器、青磁、布目瓦が出土している。

SR-01の石敷内には青磁の底部片(第11図-33)があり、15世紀頃に埋没したことが推定される。SA-01・02も同じ遺構面であり、14~15世紀の構築と考えられる。

柱穴は粗・密があるものの様に検出されたが、10~15世紀のものが混在すると考えられ、又、調査区が狭いため、建物の復元ができない。

註

(1)えびの市教育委員会『えびの市遺跡詳細分布調査報告書』1985

III.まとめ

I 区で検出された溝状遺構は、1辺55m前後の居館の周溝にあたる可能性があるものの、推定の域を出ない。

II区の溝は現在の地割（第1図）から推測すると、段丘の端に延びる旧谷に癒がるものと推定される。この溝を含めて、中世になると、大規模な灌漑によって水を引き、計画的な地割が施工されたことが推定される。

中心的な道路は石敷で側溝を備えていた。S R 01から西へ135m行くと小畦畔が直交する。この小畦畔を東の境界として、南の旧谷を考慮すると方1町の寺域が想定される。ただ、南西部の杉林においては目立った境界が見られず、杉林全体を含めるならば、東へ50m、南へ25m、北へ15m拡大した方1.5町の寺域となる。

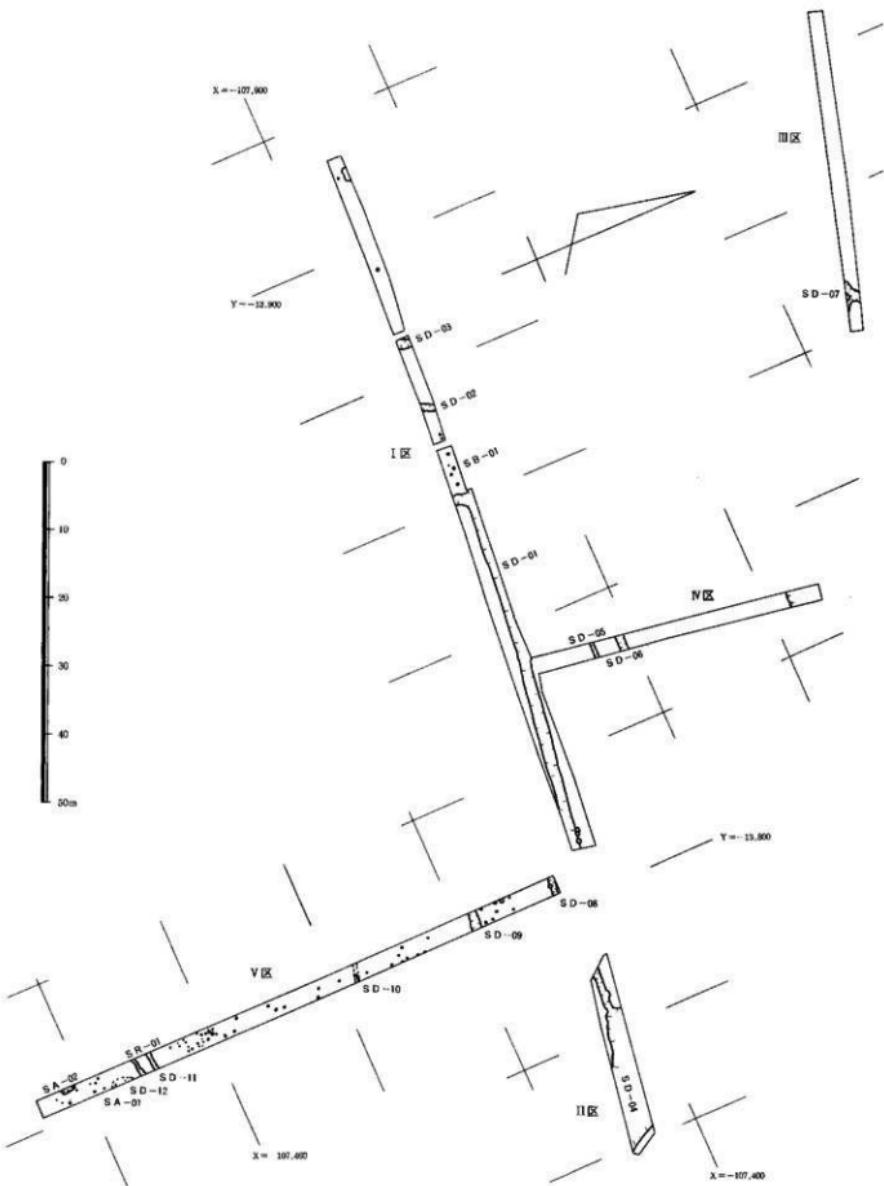
法光寺の創建や伽藍配置、寺域の問題は、今後の課題である。10世紀中ばに法光寺が廃絶しても、周辺の集落は中世まで存続しており、一帯の中心地だったと思われる。近世には全域が耕作地となり、集落は東の中溝地区などに移動した。

IV. 総括

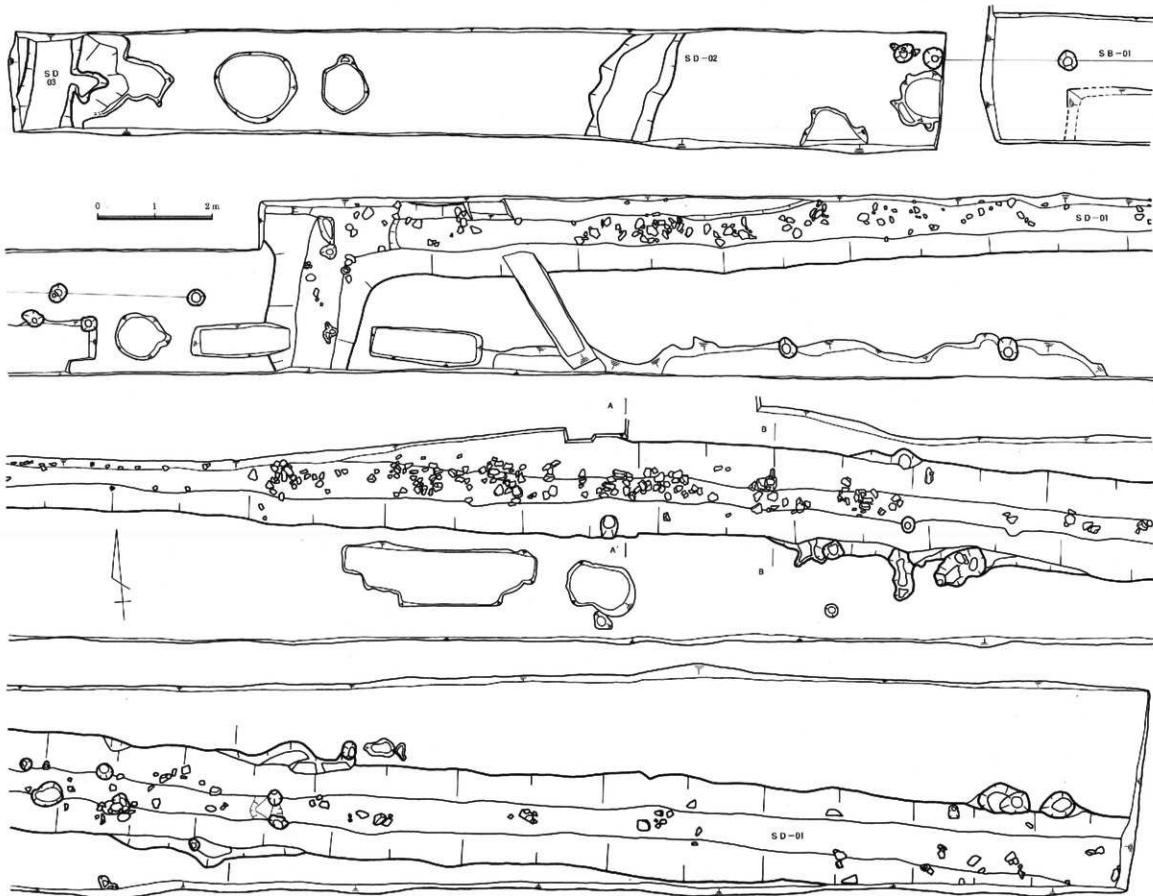
蕨・久見追地区においては地下式横穴墓の存在が周知されていたが、墳墓を営んだ人々の集落は発見されず、六都市遺跡に期待された。結果は報告のとおりで、全く関連が無い。つまり、当段丘には湧水が無いために集落が営まれず、平安時代には細々と生活し、中世後半になって灌漑・開墾が進んでいった様子が伺える。開墾が広がると周囲は微高地や縁辺に移動し、現在に至る。

弥生時代と飛鳥～奈良・平安初期には断絶がある。この現象はどの段丘においても同じであるが、おそらく、川内川が安定したため、集落は氾濫原に降りて、肥沃な耕作地で生業していたのではないだろうか。

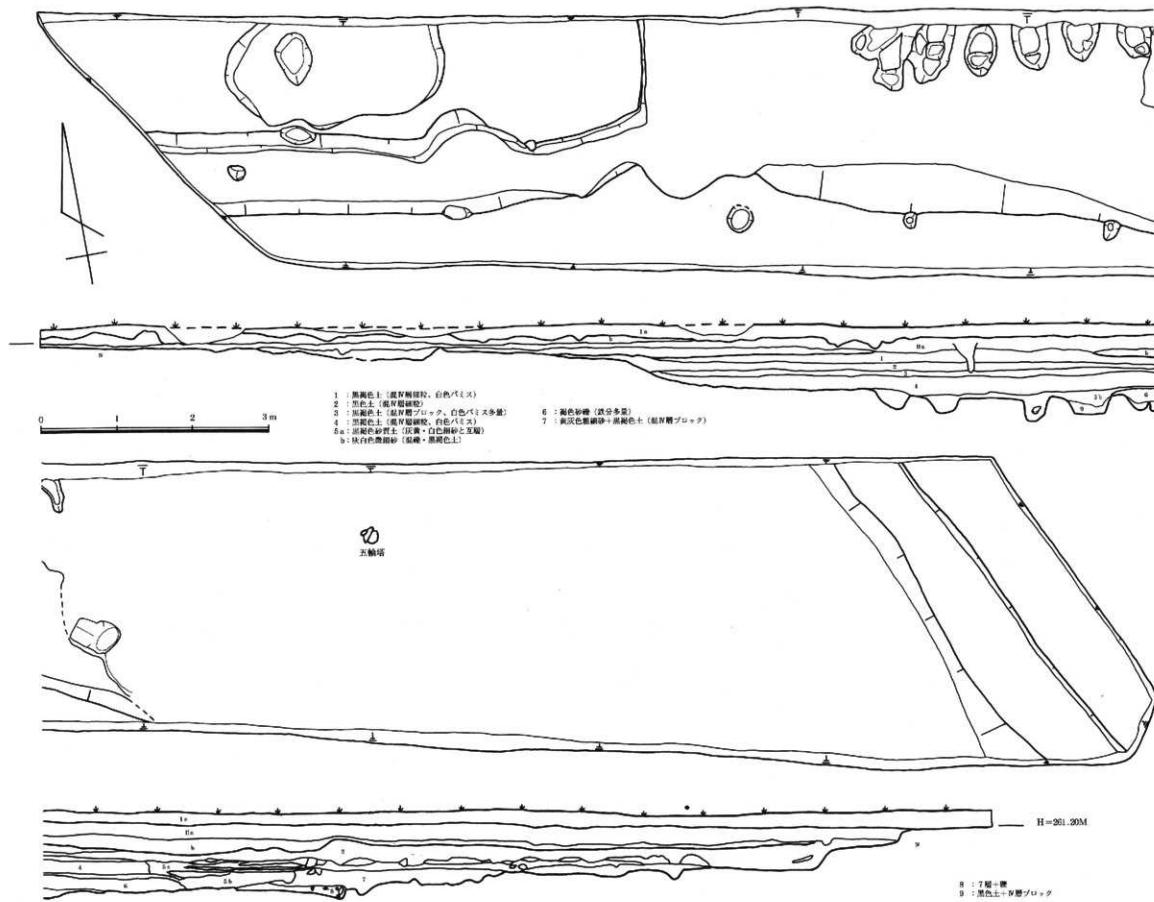
横口式土塙墓と地下式横穴墓との繋がりや墳墓群の構造・変遷といった問題も、今後の課題である。



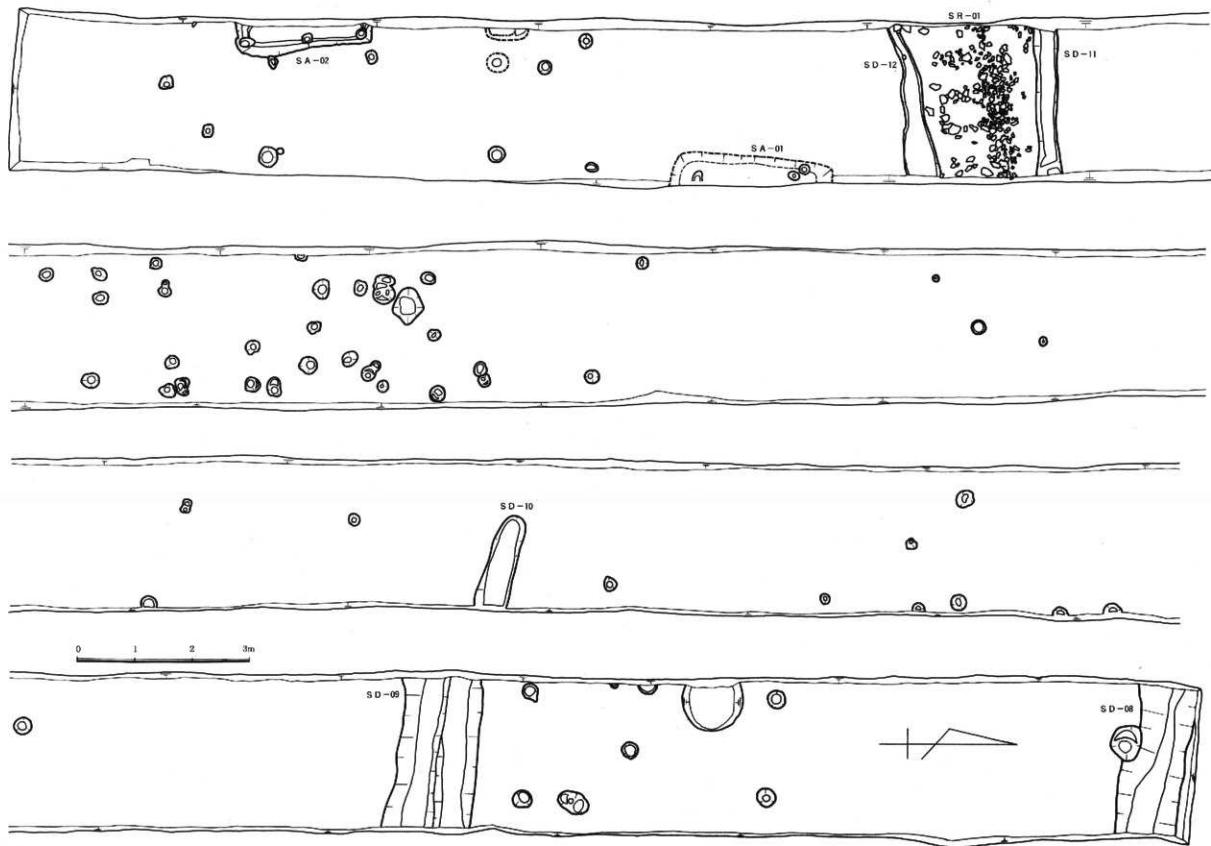
第2図 発掘坑および主要遺構分布図



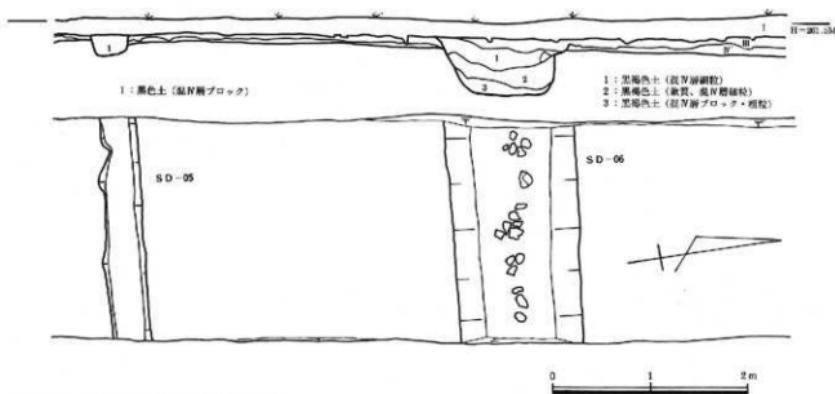
第3図 I区 遺構実測図



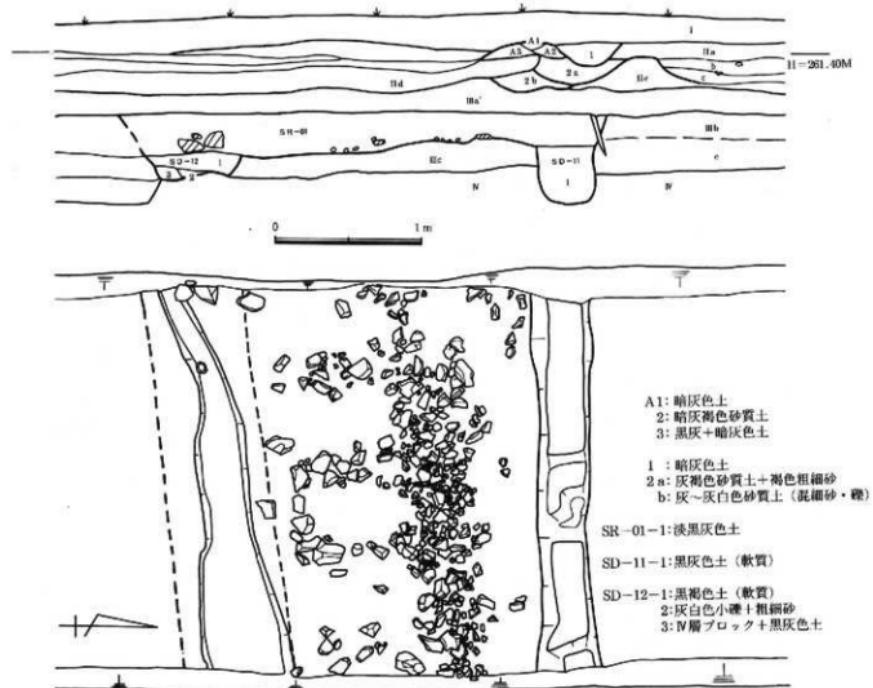
第4図 II区遺構・北壁層序実測図



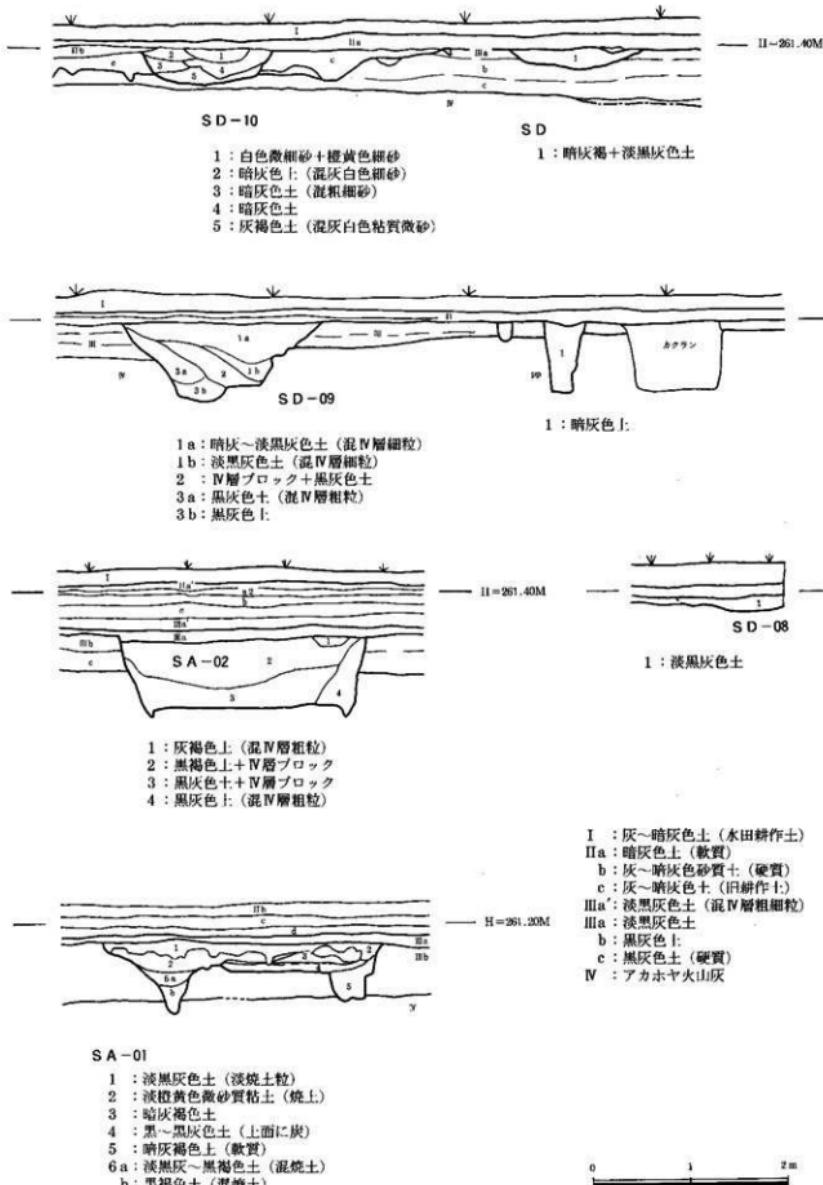
第5図 V区 遺構実測図



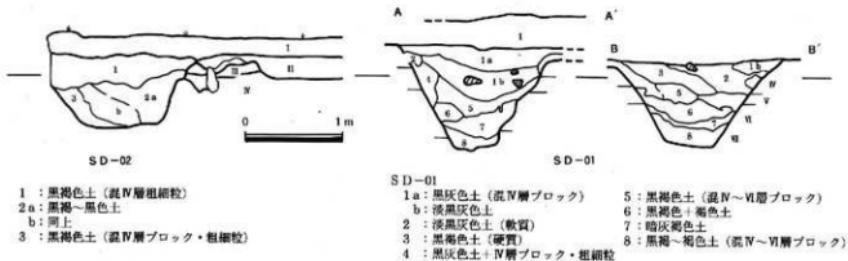
第6図 IV区 溝状遺構・西壁層序図



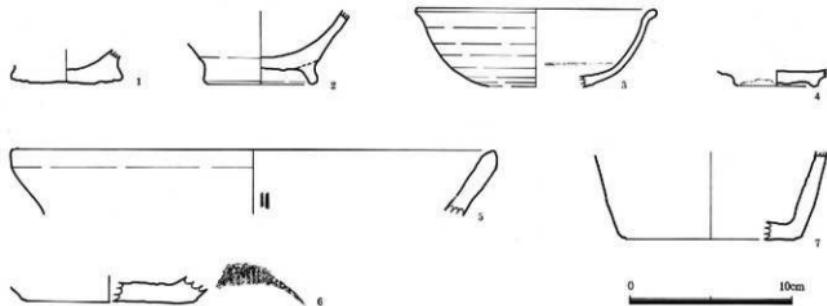
第7図 V区 SR-01・西壁層序図



第8図 V区 西壁 SD-08~10, SA-02, 東壁 SA-01層序図



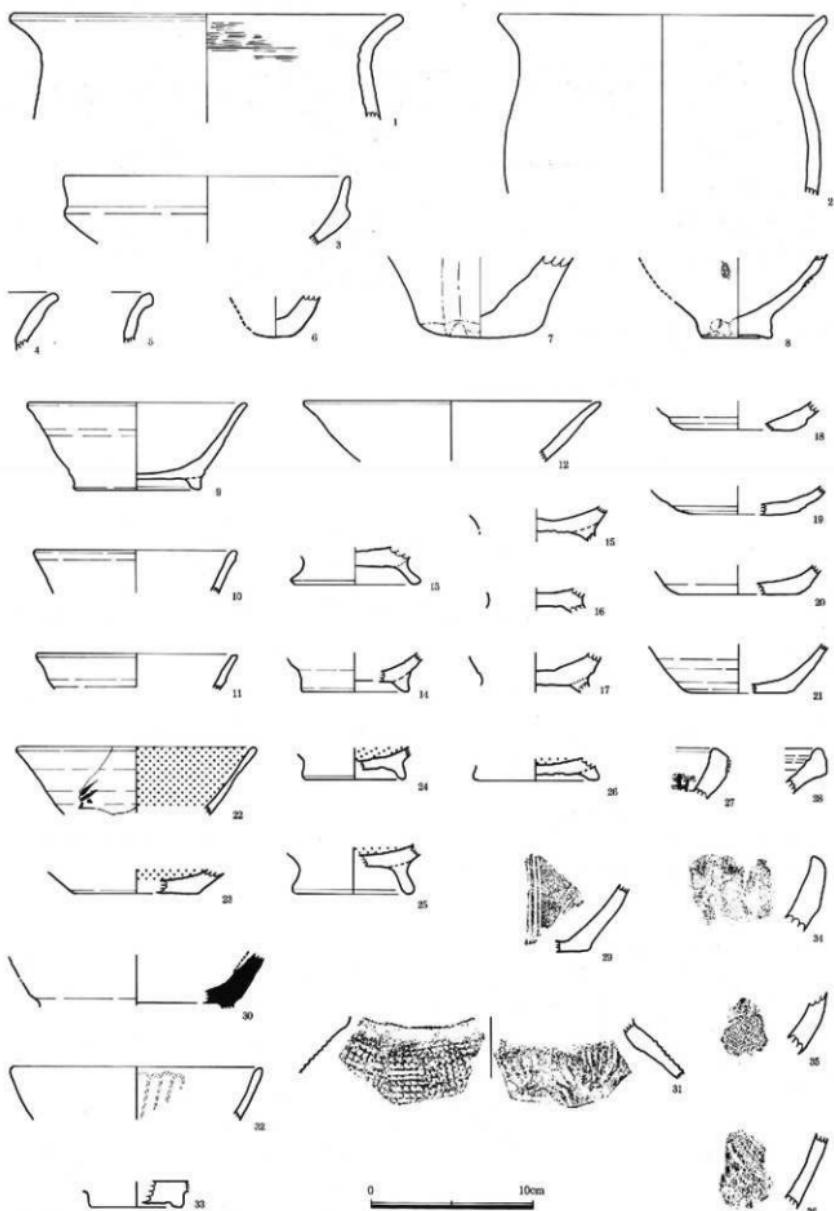
第9図 SD-02北壁・SD-01層序図



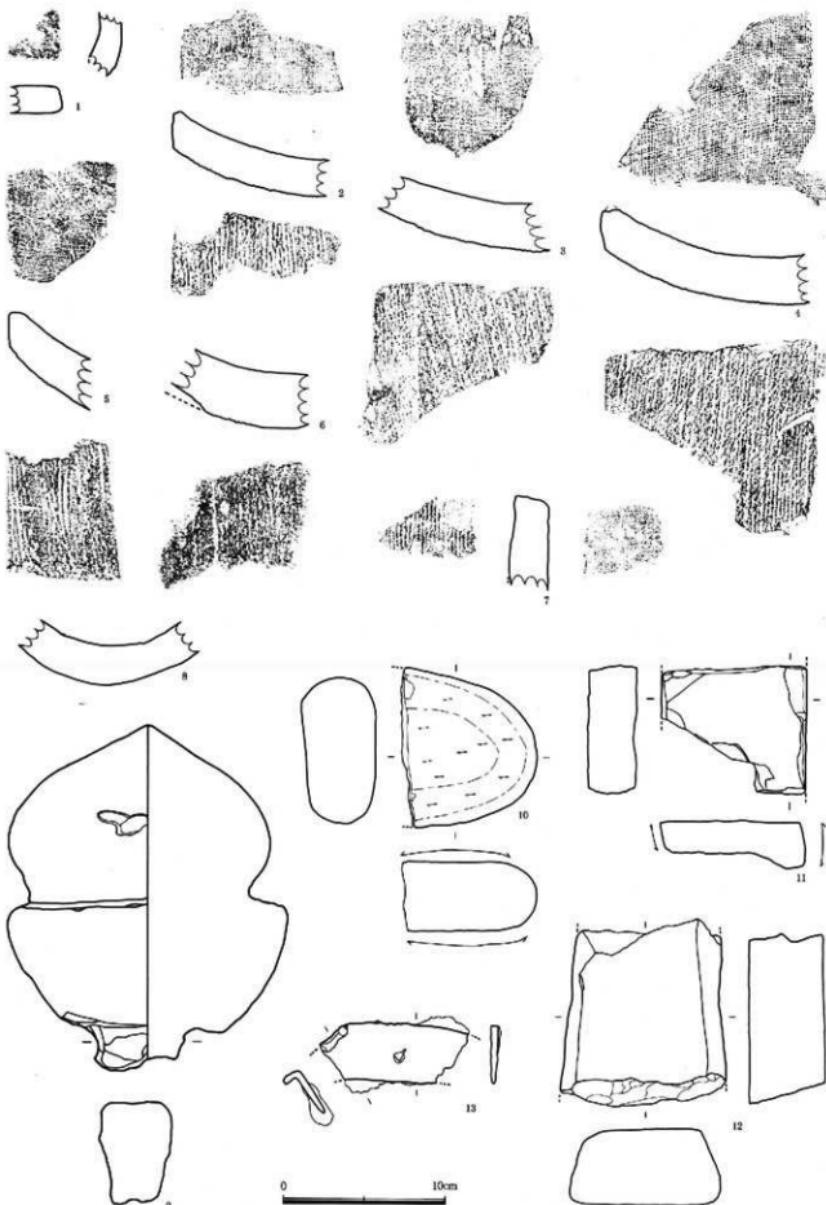
第10図 I・II区出土 土器類 実測図

表1 I・II区出土 土器類 観察表

番号	種類	遺構	器種	法量(cm)			調整部			色		焼成	胎土	備考
				口径	底径	高さ	内面	外面	底部	内面	外面			
第1回 1	土器	SD-01	壺	—	7.0	—	ナ	デ	ナ	デ	淡黄褐色	淡黄褐色	あまい	1~2ミリの茶褐色粒少量
2	土師器	SD-04	高台付壺	—	7.0	—	ナ	デ	ナ	デ	ヘラ切り	淡黄褐色	ややあまい	良
3	輪入	SD-01	壺	15.0	—	—	—	—	—	オリーブ	オリーブ	堅	淡灰白色、やや良	
4	輪入	SD-04	壺	—	5.2	—	—	—	—	オリーブ灰	オリーブ灰	堅	淡灰褐色	
5	中世国 産陶器	SD-01	壺	29.4	—	—	ナ	デ	ハ	ケ	淡褐色	淡褐色	ややあまい	良
6	中世国 産陶器	SD-01	壺	—	10.1	—	ナ	デ	ヘラナ	ナ	淡黄褐色~淡灰白色	淡灰褐色	良	1~2ミリの砂粒少量
7	中世国 産陶器	SD-01	壺?	—	10.6	—	ミズヒキ	板ナ	ナ	ダ	淡茶褐色	茶褐色	好	良
														外面に二次被熱



第11図 V区出土遺物 実測図



第12図 I・II・V区出土 布目瓦・石器・石製品・鐵器 実測図

表2 V区出土遺物観察表

番号	種類	遺構	部種	法量(cm)			調整			色調			集成	地土						
				口径	底径	高さ	内面	外面	底部	内面	外面									
第1100	土器	25	III層	甕	24.2	-	-	ヨコハゲ ナ	ヨコハゲ	-	黄	褐	黄	褐	やわらかい 1~2ミリの砂粒・赤褐色粒少					
2	上	器	III層	甕	20.3	-	-	摩	減	刻	落	-	黄	褐	黄	褐 あまい 1~2ミリの石英粒 多				
3	土器	器	III層	甕	17.4	-	-	摩	減	摩	減	-	黄	褐	黄	褐 やわらかい 1~3ミリの砂粒 多				
4	土器	器	III層	甕	-	-	-	摩	減	摩	減	-	黄	褐	黄	褐 やわらかい 1~2ミリの砂粒 多				
5	上	器	III層	甕	-	-	-	ナ	デ	ヨコハゲ	-	淡黄褐色 淡茶褐色	茶	褐	黄	2~4ミリの茶褐色粒 少				
6	土器	器	III層	甕	-	2.4	-	ナ	デ	ハケ?	-	黄	褐	黄	褐 あまい 1~2ミリの砂粒 少					
7	土器	器	III層	甕	-	7.8	-	摩	減	タケズリ	指痕ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	黄	褐 やわらかい 1~2ミリの石英粒 多					
8	土器	器	III層	甕	-	4.2	-	ナ	デ	剥	落	-	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良	1~2ミリの砂粒 少				
9	土器	器	III層	甕	高台付塊	13.3	7.8	5.4	ナ	デ	ナ	デ	ヘラ切り	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	やわらかい 良				
10	土器	器	III層	甕	高台付塊	12.4	-	-	ナ	デ	ナ	デ	-	淡灰褐色 淡灰褐色	淡灰褐色 淡灰褐色	良 好良				
11	土器	器	III層	甕	高台付塊	12.2	-	-	ナ	デ	ナ	デ	-	黄	褐	黄	褐 赤褐色粒 少			
12	土器	器	III層	甕	高台付塊	20.4	-	-	摩	減	摩	減	-	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	あまい 良				
13	土器	器	III層	甕	高台付塊	-	8.2	-	ナ	デ	ナ	デ	-	灰褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良	1~2ミリの茶褐色粒 多			
14	土器	器	III層	甕	高台付塊	-	6.6	-	ナ	デ	ナ	デ	-	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良				
15	土器	器	III層	甕	高台付塊	-	7.2	-	摩	減	摩	減	-	淡灰褐色 淡灰褐色	淡灰褐色 淡灰褐色	あまい 良				
16	土器	器	SD-12	甕	高台付塊	-	6.2	-	ナ	デ	ナ	デ	-	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 赤褐色粒 微量				
17	土器	器	SD-12	甕	高台付塊	-	6.8	-	摩	減	ヘラケズリ	ヘラ切り	淡	黄	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 赤褐色粒 微量			
18	土器	器	III層	甕	-	8.4	-	ナ	デ	ナ	デ	ヘラ切り	黄	褐	淡茶褐色 淡茶褐色	淡茶褐色 淡茶褐色	良			
19	土器	器	III層	甕	坏	-	7.8	-	ナ	デ	ナ	デ	ヘラ切り	淡	黄	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	やわらかい 良		
20	土器	器	III層	甕	坏	-	7.2	-	ナ	デ	ナ	デ	ヘラ切り	淡	白	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	あまい 良		
21	土器	器	III層	甕	坏	-	6.8	-	ナ	デ	ナ	デ	ヘラ切り	淡	黄	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	あまい 良		
22	黒色土器	器	III層	甕	坏	-	-	-	ヘラミガキ	ナ	デ	-	黑	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良好 墨書き「光」か				
23	黒色土器	器	III層	甕	坏	-	7.4	-	ヘラミガキ	ナ	デ	ヘラ切り	黑	灰	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 良			
24	黒色土器	器	III層	甕	高台付塊	-	6.4	-	ヘラミガキ	摩	減	摩	減	黑	灰	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 良		
25	黒色土器	器	III層	甕	高台付塊	-	7.6	-	ヘラミガキ	ナ	デ	ヘラ切り	黑	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 赤褐色粒 微量				
26	黒色土器	器	III層	甕	高台付塊	-	7.6	-	ヘラミガキ	ナ	デ	ヘラ切り	黑	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 良				
27	中世四足陶器	SD-09	四足	鉢	-	-	-	ナ	デ	-	-	淡	黄	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 赤褐色粒 少				
28	東播系須恵器	III層	鉢	-	-	-	-	ナ	デ	ナ	デ	-	灰褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 良	1ミリ前後の砂粒 少				
29	中世圓底陶器	III層	鉢	鉢	-	-	-	ナ	デ	ナ	ナ	ナ	灰褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良	1~4ミリの砂粒 少				
30	須恵器	III層	高台付塊	-	12.0	-	ナ	デ	ナ	デ	ナ	デ	淡	青	灰褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	堅 硬 良			
31	瓦質土器	III層	甕	-	-	-	同心円 内タキ	格子目 タキ	-	-	-	-	暗	灰褐色 暗灰褐色	暗灰褐色 暗灰褐色	良 好	精良、淡黄白色			
32	輸入青磁	III層	碗	碗	15.4	-	-	-	刺先連弁	-	オリーブ灰	オリーブ灰	良	好						
33	輸入青磁	SR-01	碗	-	5.8	-	-	-	-	削り出し	オリーブ灰	オリーブ灰	堅	硬						
34	土製品	III層	布質土器	-	--	-	布	底	押	頭	压	-	淡	青	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	あまい カサリ縛風化粒 少			
35	土製品	III層	布質土器	-	-	-	布	底	粗	ナ	デ	-	黄	褐	黄	褐	良 1~4ミリの砂粒 少			
36	土製品	III層	布質土器	-	-	-	布	底	粗	ナ	デ	-	淡	青	淡黄褐色 淡黄褐色	淡黄褐色 淡黄褐色	良 赤褐色粒 少			

表3 I・II・V区出土 布目瓦・石器・石製品・鉄器 観察表

番号	種類	出土地・遺構	法量(cm)	調査ほか		色	胎土・石質ほか
				内面	外面		
第12回 1	布目瓦	I区 SD-01	3.2×3.4×1.7	四面：布目、凸面：車減	淡黄	淡黄	精良、土師質
2	布目瓦	II区 SD-01	9.6×5.2×2.3	布目	輪目	暗灰～ 暗青灰	精良、須恵質
3	布目瓦	I区 SD-01	9.8×9.8×2.7	布目	輪目	淡黄灰	精良、土師質
4	布目瓦	III区 SD-04	12.8×12.0×2.9	布目	輪目	淡灰	精良、須恵質
5	布目瓦	V区 III層	6.3×8.8×2.6	布目	輪目	淡黄～ 淡茶灰	精良、土師質
6	布目瓦	I区 SD-01	8.8×6.6×2.6	布目	輪目	淡黄白	精良、土師質
7	布目瓦	V区 III層	5.6×6.0×2.5	布目	輪目	灰～ 淡灰	精良、土師質(硬)
8	布目瓦	I区 SD-01	11.1×6.2×2.3	布目	タタキ	淡黄～ 淡黄白	精良、土師質、摩滅
9	五輪塔	III区 SD-04	20.2×17.2	差込式	—	—	蛭石製
10	砥石	I区 SD-01	8.3×9.8×4.5	2面使用	—	—	砂岩
11	砥石	II区 SD-01	8.9×7.8×2.9	4面使用?	—	—	砂岩
12	砥石	I区 SD-01	10.7×10.1×4.7	4面使用	—	—	砂岩
13	鉄鏝	V区 III層	9.2×1.8×0.4	—	—	—	—



調査地周辺 航空写真

図版2



調査区 全景（右が北）



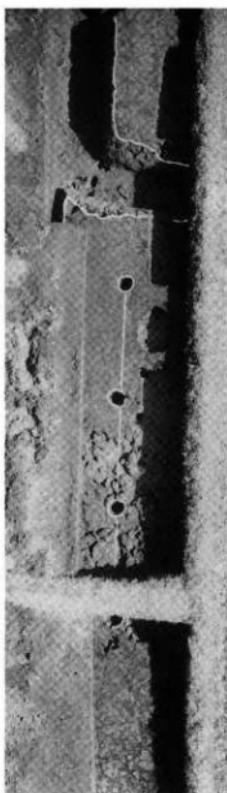
I 区 全景（上が北）



SD-01 掘込状況（東から）

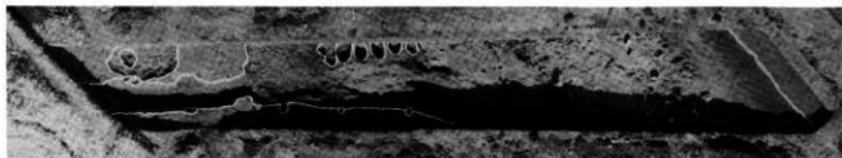


SB-01とSD-01の西コーナー（西から）



同左（左が北）

図版4



II区 全景（上が北）



II区
遺構検出状態
(西から)



II区 完掘全景（西から）

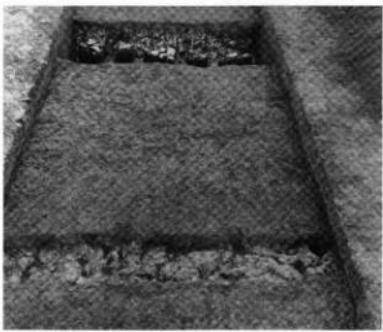


II区 完掘全景（東から）

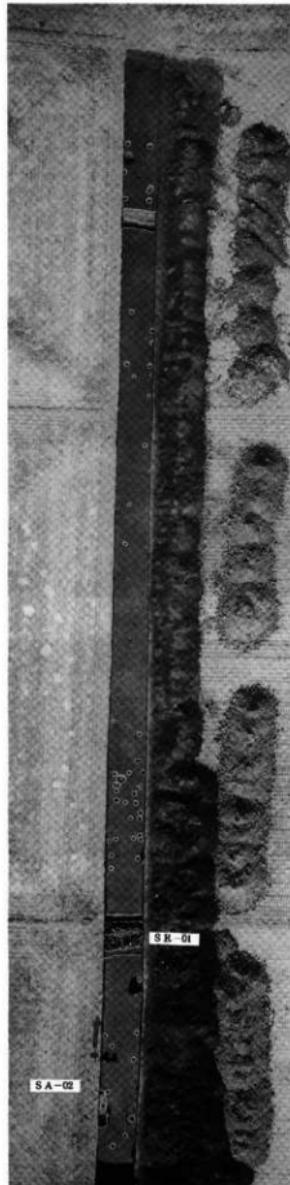


IV区 全景（右が北）

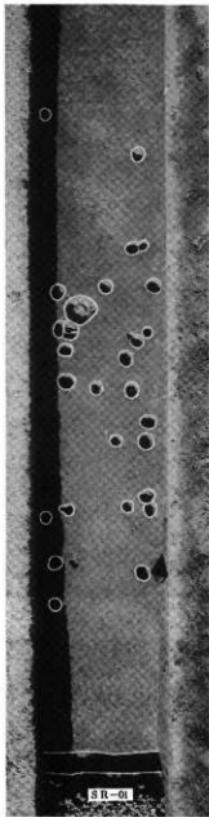
IV区
SD-05と
SD-06
掘込状態
(南から)



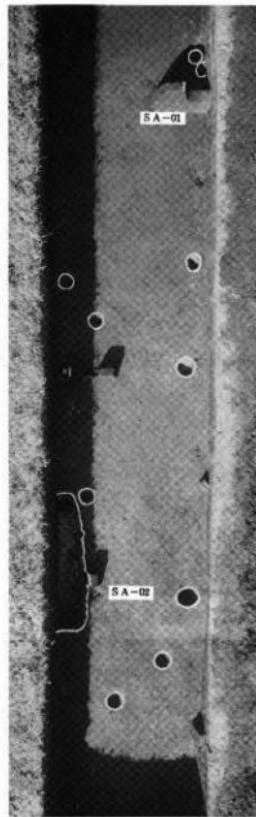
図版6



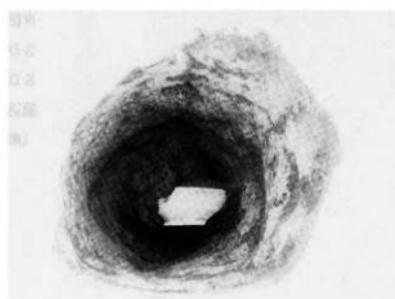
V区 全景（上が北）



SR-01の北側 柱穴群



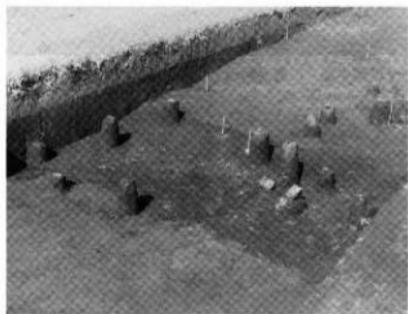
SA-01・02周辺



柱穴内 遺物出土状態



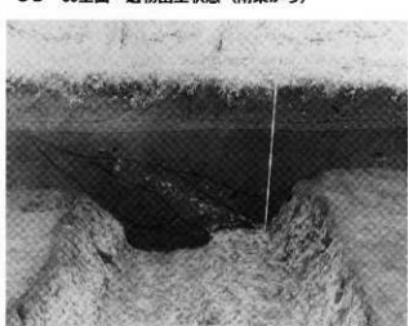
V区北半部 III層遺物出土状態（南東から）



SD-09上面 遺物出土状態（南東から）



同上（東から）



SD-09完掘、西壁層序



V区南半部 III層遺物出土状態（南東から）



北半部 遺構検出状態（南から）



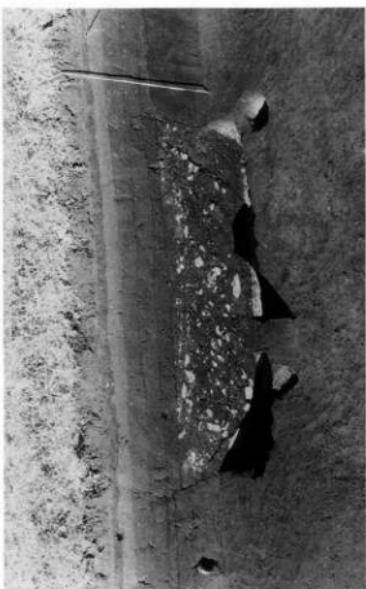
V区 SR-01と側溝 検出状態（東から）



同上 完掘全景、西壁層序（東から）



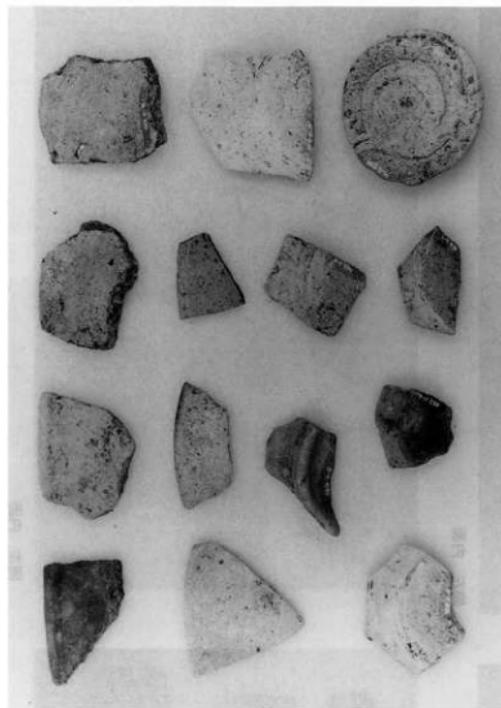
S A - 01 断面層序 (南西から)



S A - 02 断面層序 (東から)



V 2 区南半 全景 (南から)



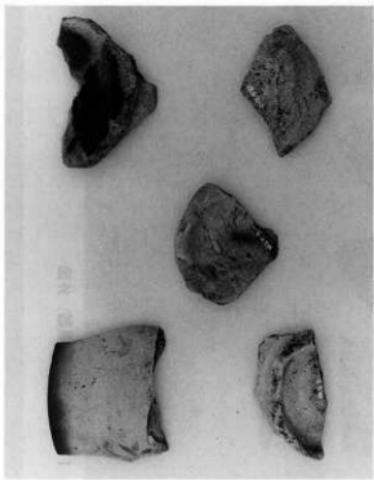
V区出土 土器 (1)



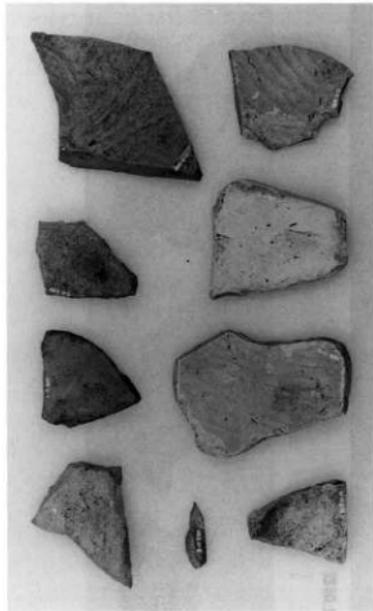
同上 (2)



V区出土 土器 (1)



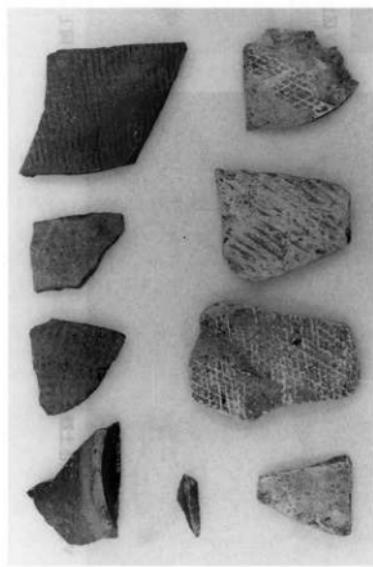
V区出土 黑色土器



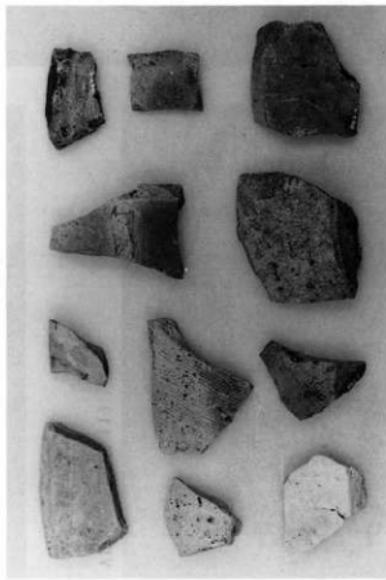
同左 内面



同左 内面



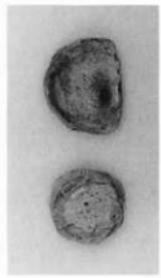
I・V区出土 瓷片器 外面



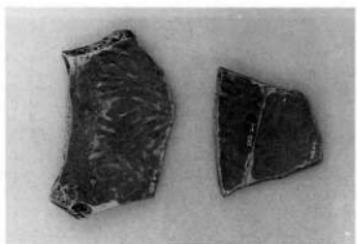
调查区出土 中世纪陶器 外面



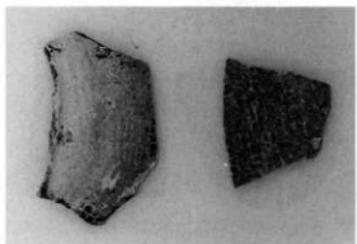
V区出土 布質土器 内面



V区出土 布質土器 内面



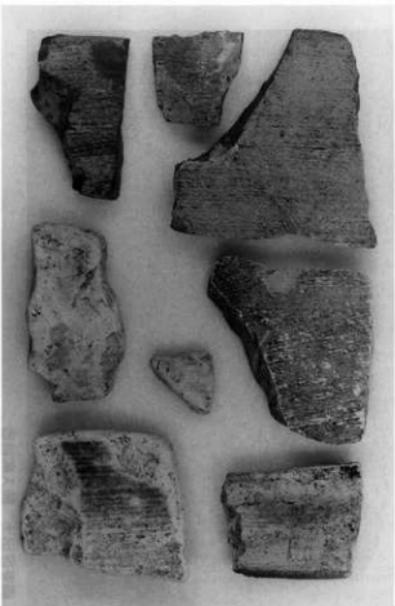
V区出土 瓦質土器 内面



調査区出土 布目瓦 凹面



同左 凹面



同左 凸面

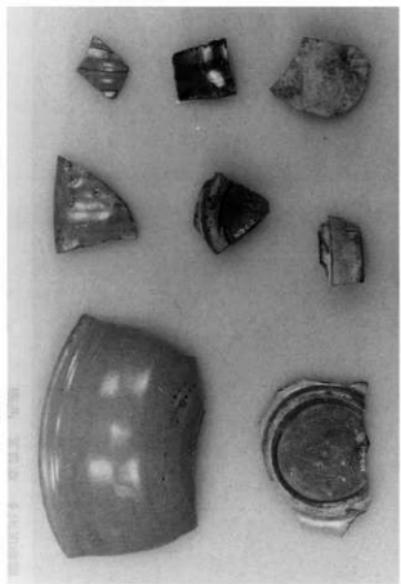
图版14



V区出土 瓷片



II区 SD-04出土 五輪塔殘片



調查區出土 輸入陶磁器



I区 SD-01出土 磚石

報告書抄録

ふりがな	こきばる わらび	くみぎこ	じぬしはる	ろくぶいち くらもと ちゅうまん ほうこうじ
書名	小木原遺跡群叢地区(C・D地区)・久見追B地区・地主原地区、原田・上江遺跡群六都市遺跡、藏元・中満・法光寺遺跡I・II			
開書名	上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書II			
シリーズ名	えびの市文化財調査報告書第16集			
編集者	中野和浩			
編集機関	えびの市教育委員会			
所在地	宮崎県えびの市大字大曾司2146-2 TEL 0984-35-2168			
発行年月日	1996年3月31日			
	所在地	北緯	東經	調査期間 調査面積 調査原因
小木原遺跡群	えびの市大字上江字藏元・久見追・地主原			880809～890202 7,000m ² 県営圃場整備
六都市遺跡	えびの市大字上江六都市			901204～910208 2,500m ² □
藏元遺跡	えびの市大字上江字藏元			921116～ 2,100m ² □
中満遺跡	えびの市大字上江字中満			930311 4,500m ² □
法光寺遺跡I	えびの市大字上江字法光寺			2,700m ² □
法光寺遺跡II	えびの市大字上江字法光寺			931111～931208 756m ² □

所取遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物
小木原遺跡群	古墳時代	地下式横穴墓22基	刀剣、鉾、鏡、刀子、土師器
叢C・D地区	中世	溝状遺構	土師器
久見追B地区	古墳時代 室町～近世	地下式横穴墓13基、土壙基2基 土壙基1基、柱穴1000基、溝状遺構	刀剣、鏡、刀子、轡 土師器、輸入陶磁器、国産陶磁器
地主原地区	近世～近代	柱穴、溝状遺構	国産陶磁器
六都市遺跡	中世	掘立柱建物跡9軒、竪穴状遺構16基	土師器
藏元遺跡	中世	掘立柱建物跡、竪穴状遺構1基、石組遺構1	土師器
中満遺跡	近世	堀立柱建物跡	国産陶磁器
法光寺遺跡I	平安～中世	掘立柱建物跡15棟、竪穴状遺構1基	墨吉十器、布目瓦、土師器、陶磁器
法光寺遺跡II	平安～中世	柱穴、竪穴状遺構2基、溝状遺構、石敷道路	卑嘗土器、布目瓦、土師器、鉄鎌

えびの市埋蔵文化財調査報告書 第16集

小木原遺跡群蕨地区（C D地区）・久見迫
B地区・地主原地区、原田上江遺跡群六
部市遺跡、藏元・中満・法光寺遺跡 I・II

上江・池島地区県営圃場整備事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書II

1996

編集・発行 えびの市教育委員会
えびの市大字大明司2146-2

印 刷 (株)長崎印刷
西諸県郡高原町大字後川内